会　議　録

会　議　名	平成２７年度第４回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事　務　局	市民部　コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開催日時	平成２８年２月２日（火）１８時３０分～２０時００分		
開催場所	市立はけの森美術館　多目的講義室		
出席委員	鉄矢悦朗会長 山村仁志副会長 村澤　司委員 上田郁子委員 小林正隆委員 平岡良一委員		
欠席委員	（な　し）		
事務局員	学芸顧問　　薩摩雅登 コミュニティ文化課文化推進係　　井上、吉川 　同　　はけの森美術館学芸員　中村、鈴木		
傍聴の可否	可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数	０人
会議次第	（１）事業実施報告等 （２）平成２８年度事業予定について （３）平成２８年度予算について （４）平成２７年度の運営協議会、総括等について （５）その他		
会議結果	別紙のとおり		
会議要旨	別紙のとおり		
提出資料	（１）開催した展覧会・ワークシップ等及び今後の予定 （２）ワークショップ等アンケート結果など（一式） （３）平成２７年度年間スケジュール		

【鉄矢会長】　　平成２７年度第４回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催したいと思います。

　初めに資料の確認を事務局のほうからお願いします。

【中村学芸員】　　まず、次第が１枚、資料１がホチキスどめの５ページある資料がございます。資料１とともに、資料１－２という番号が振っているもの、トークセッションのアンケート結果含め６ページ、資料１－３、てつがくカフェのアンケート結果が１枚です。資料１－４、ホチキスどめの３ページの特別ギャラリートークのアンケートです。資料１－５が横型のＡ４１枚の串田孫一展入館者数等の資料になっております。資料２と右肩に書いています横１枚のものが今年度の年間スケジュールのもので、こちらに関しては、説明はないんですが、一覧になっておりますので参考までに見てください。

　資料の方は以上でおそろいでしょうか。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。では、事業報告、次第に準じていきます。事業報告からお願いいたします。

【中村学芸員】　　では、資料１の方をごらんください。開催した展覧会・ワークショップ等ということで、１１月３日に開催されて１月１７日に終了いたしました「生誕１００周年　串田孫一展」。こちらの展覧会なんですが、今回、開催日数が６０日で、入館者数が３,６２４人、うち有料入場者数が２,５４９人ということで、当館の自主企画の展覧会では、今までで一番入館者が多い展覧会となりました。おかげさまで販売していたカタログも、皆様のお手元にありますが、１,０７５冊販売ということで、かなり盛況でした。この展覧会では、アンケートのほうも来館者とかに配布していたんですが、３人に１人の方に回答いただきまして、１,２００枚ほど回収いたしました。量が膨大な量ですので、今、集計中となっております。

　スライドをご覧ください。１１月３日に開催した内覧会の様子になっておりまして、串田さんのご遺族の方、奥様が見えていました。３コマ目ですが、左の方が串田光弘さん、次男の方に挨拶していただき、最後に市長に挨拶をしていただきました。

　続きまして、「トークセッション」です。こちらは１２月５日（土）に小金井宮地楽器ホールの小ホールで開催いたしました。安野光雅さん、黒井千次さんをお招きし、当館の学芸顧問である薩摩先生がコーディネーターとして、進めていったトークセッションなんですが、かなりこちらも盛況でして、参加者が１３８人で、こちらのアンケート結果が１－２番の資料になっておりますので、こちらもあわせて見ていただきたいんですけれども、こちらも満足度が「非常に満足」と「満足」を足しますと９８％の人が満足という結果が出ております。

　今回、こちらは宮地楽器ホールとの共催で開催したものでして、第１部では安野さんによる、串田さんについてのお話をしていただきました。第２部では、小金井市民オーケストラのメンバーの方で、串田孫一さんの外語大時代の教え子だった方がいらっしゃいまして、その方々にちょっと串田さんや生徒の思い出をお話ししていただいて、演奏をしていただきました。

　配布しておりますプログラムのほうにも記入しておりますが、お話を聞いて、皆

さんで串田さんのことに思いを馳せて音楽に浸るというような、そんな第２部になりました。

続きまして、「詩の楽しみ方を学ぶ」というワークショップを予定していたんですが、こちらは講師の川島さんがけがで入院してしまいまして、開催ができなかったので中止となりました。一応３月に開催できればということで、今、調整中なんですが、まだ未定ですので、また決まりましたら、ご報告したいと思います。

次、２ページ目ですが、「みんなで見よう話そう！美術館×てつがくカフェ」というイベントを１２月１２日に開催いたしました。講師に、ＮＰＯこども哲学おとな哲学アーダコーダの井尻貴子さんをファシリテーターとしてお呼びしまして、作品を１点、大体１時間ぐらい時間をかけて、じっくりみんなで座りながら、何が描かれているかというところからスタートして、それぞれモチーフに対して自分の考察を述べたりとか、意見を述べたりとかする、そういったラリーツアーのようなイベントを開催したんですけれども、こちらは、参加者のほうが７人、親子連れも参加していました。

みんなで作品の前で、座ってじっくりといろいろ語り合ったんですが、こちらの資料１－３にアンケートをまとめたものが１枚ありますので、後でぜひ見ていただければと思います。

続きまして、「ギャラリーコンサート」を今回、開催いたしました。こちらに関しては、１２月１９日（土）と１月９日（土）とで２回開催いたしました。最初の開催の際に、ジェイコムのほうで、地元のニュースを紹介してくれる番組で放送してくれたところ、少し反響がありまして、最初の１回目は２０人の方が参加してくれたんですが、２回目では４４人の方が参加してくれました。これは１回目の様子なんですが、２回目はこんな感じで、席もいっぱいということで、ちょっと狭い展示室だったので、少し窮屈な思いをされた方もいらっしゃるかもしれないんですけれども、美術館のギャラリーならではの音の響きといいますか、そういったものを皆さん楽しんでいただけたようでした。

こちらで運営企画のほうは全てご紹介いたしました。

【平岡委員（館長）】　追加の報告ですが資料１－５をごらんいただけますでしょうか。ちょっと内容ではなくて、しごく事務的なほうの報告になりますが、先ほど中村学芸員から報告があったとおりのかなりの入場者数という状況になっています。それで、実はそれとあわせてかなりグッズの販売が今回伸びたというところもありまして、こちらの冊子のほうがかなり、こちらも追加発注をするなど大変なことになったというほどの好評という状況でありました。

カタログにつきましては、実は追加をしたにもかかわらず、完売という状況で、あとは資料としてこちらで保管する程度しか残っていない状況になりまして、１,０００冊を超える販売数があったという状況です。それ以外にも、これとあわせて図録が６０冊、はがきも５０セットということで、お客様として、いろいろな面でこちらとしては好評だったかなと思っているところであります。

ちょっと補足をさせていただきました。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。

【中村学芸員】　　続きまして（２）の教育普及事業ということで、①「親子で美術館を楽しもう！おはなしのへや」、１２月１１日（金）に開催いたしました。読み聞かせということで、串田孫一が絵本を描いていましたので、串田孫一の絵本を読み聞かせしていただいて、ちょっと展覧会に関連を持たせた形で開催をしていただきました。

読み聞かせ以外は、葉っぱの葉脈をとる遊びといいますか、葉脈とりを皆さんでしまして、こういった作品を作成しました。この日参加者は７人で、大人の方も、串田孫一の絵本の読み聞かせを聞きたいということで参加されていました。

次が鑑賞教室なんですが、今回、串田孫一展の開催の際には、スケジュールの都合もあり、７校参加していただきました。鑑賞教室の様子なんですが、串田孫一さんの作品は素朴な表現が多かったりしましたので、子どももすごくなじみやすかったようでした。みんなでちょっと不思議な表現のところをそれぞれ意見を出し合っているところです。

鑑賞教室に先立ちまして、本町小学校では事前授業も１２月２日に開催いたしまして、それがこの様子なんですけれども、４学年の児童、２クラスに事前に串田孫一の作品のアートカードのようなものを配付して、みんなで作品に関して問題を出して、クイズ大会をするような、簡単に説明をするとそういったものなんですけれども、事前に行いまして、鑑賞のほうを進めていました。

あと、これも串田展開催中なんですが、中学生の職場体験を行いました。今年は南中学校の２年生の男の子が４名来まして、監視業務に入ってもらったりですとか、受付に入ってもらったりということで、すごく大活躍していただきました。

あと、今回の課題としては、いろいろな方に向けたパンフレットをつくろうということで、外国の方向け、子ども向け、若者向け、高齢者向けでつくってもらいました。こういったように、この子は外国人向けでつくっていますけど、これは子ども向けですね。美術館ってどんなところというのを、説明を書いてくれたりとか、中学生なりにいろいろこの美術館のこととかを考えてくれて、こういった課題を行ってもらっていました。

次が教育普及事業ではないんですが、（３）その他のところを見ていただきまして、①の小金井宮地楽器ホール、友の会のイベントとしまして、今回、友の会会員のための特別ギャラリートークというのを開催しました。これは小金井宮地楽器ホールのほうが主催の事業なんですけれども、私が串田展についてちょっとスライドを交えながらいろいろ話をして、その後にオーブン・ミントカフェのお菓子をみんなでちょっと食べて、お話をした後に展覧会を見るというような、そういった内容になっております。こちらも友の会の方の定員は２０名だったんですが、満席となりました。こちらは、市民交流センター指定管理者の方で作成したアンケート結果が資料１－４になっておりまして、ほとんど参加者の方は小金井市の方だったんですが、皆さん満足いただいたということがアンケートからもわかりました。こういった形で市民交流センターであったり、ほかの市内施設とかと連携していけるというのは、今後もいろいろな活動の広がりが期待できるのではないかなと自分自身でも感じましたので、こちらもその他ということで報告をさせていただきました。

続きまして、②作品貸出ということで、練馬区立美術館３０周年記念のシスレー展を開催していまして、その際に中村研一の作品の貸し出しを行いました。また、松坂屋美術館のほうは会期中なんですけれども、以前、こちらで勤務していた学芸員の方が企画されている展覧会でして、そういった縁もありまして、今、当館所蔵の藤田の作品の貸し出しを行っております。

以上で実施報告のほうは終了させていただきます。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。委員の皆様でご質問とかご意見等がありましたら、よろしくお願いします。

【山村委員】　企画展、串田孫一展が３,６２４人で一番今まで入ったということで、ちなみに、２番から３番とか、そういうのはわかりますか。

【中村学芸員】　はい。数字だけで言いますと、一番多いのは、実は猪熊弦一郎展でして、これは４,０００人を超えていたんですけれども、共同巡回展だったので、自主企画で言いますと今回の串田展が一番多くて、２番目が朝倉彫塑館の猫の彫刻です。３番目が佐藤慶次郎展もまた共同巡回展なんでカウントできないんですけれども、ちょっとすみません、３番目はまた後で調べて報告いたします。

【山村委員】　朝倉文夫は三千何百？

【中村学芸員】　３,０００人は超えていなかったと思います。２,６００ぐらいだったと思います。

【山村委員】　わかりました。

【平岡委員（館長）】　石川展が結構多かったかなと思います、ガラス展のあたりも多かったと思うので、ちょっとすみません、私も手元に資料が無いのですが、単独企画としては多分一番、石川展を超えて１日当たりの来館者数が多かったということなので、全体でいくと猪熊展が一番で、数としては佐藤展よりも、もしかしたら串田展のほうが多かったかもしれません。

【中村学芸員】　そうです。佐藤展よりは多いです。

【平岡委員（館長）】　多いですね。会期も佐藤展、少なかったんですけど、１日平均でならしても佐藤展よりも入りは多かったという状況でした。

【山村委員】　わかりました。ありがとうございます。

【鉄矢会長】　ほかにございますか。

なければ、（２）平成２８年度事業予定について、お願いします。

【鈴木学芸員】　２８年度の事業予定なんですけれども、まず、資料１の４ページを見ていただきたいと思います。２８年度の最初の予定としましては、３月１９日から始まります開館１０周年記念の中村研一回顧展を今、控えているというところです。ちょうど今度の春が当館の開館１０周年になりますので、中村研一を振り返るモニュメンタルな展覧会にしたいと考えて準備をしております。

関連企画としては、１０周年ということがありますので、オリジナルグッズというふうにしたんですけれども、学芸大学の正木先生のところの学生さんもデザインとか編集の協力をしていただきました。来館してくださり、観覧券を購入してくださった方に記念として、そんなことを今考えていろいろ計画を進めています。

あと、次の企画としましては、ギャラリートークをする予定でして、３月２６日

と５月１４日に２回行います。

２つ目のイベントとしましては、鑑賞＋創作プログラムで「さがして・あつめて・くっつける　中村さんの絵」というプログラムを行う予定です。この講師の方々なんですが、藤田さんと赤松さんと妹尾さんという、えほんとあそぶアートのおうちというユニットを組まれていまして、実はちょうど昨夏の「けんぼしゃん」の展覧会でもこの方々にプログラムをやっていただきました。そのとき、とても好評でして、ぜひ次の機会もお願いしたいという方がとても多かったので、今回またご協力していただくという形になっています。

以上が展覧会の予定になります。

【中村学芸員】　　続きまして、教育普及事業についてなんですが、こちらは直近の予定では、２月１０日に職場訪問としまして、第二中学校、１年生が見学に来ます。

続きまして、５ページ目の②のワークショップですが、ワークショップ「封筒でつくるポケットファイル」というワークショップを３月１２日（土）に開催いたします。こちらは、講師の方が宇田川一美さんという雑貨デザイナーの方で、宇田川さんは雑貨にまつわる本を出されていたりですとか、新聞で、文房具にまつわるコラムを書かれていたりですとか、活躍されている方ですので、今回、ご協力いただきまして、みんなで自分だけのオリジナルの雑貨をつくろうということで開催します。

協力として、中村文具店さんに材料などを協力していただく予定になっております。中村文具店さんは古い紙ですとか、封筒とか、そういったものをたくさんお持ちですので、地元の雑貨デザイナーとお店とコラボレーションして、地域の文化もあわせて紹介できるようなワークショップになればいいなと思っております。一応、こちらは１日の開催なんですが、午前中は小学生向け、午後は大人向けという形で開催する予定です。

【鈴木学芸員】　　続きまして、３番目のその他なんですけれども、２８年度の作品の貸し出しの予定があります。まず、１つ目が新居浜市美術館で開催される予定の「光風会と新居浜」という展覧会に中村研一の作品を７点貸し出しする予定です。光風会関連のものであるとか、そういった素描のものを貸し出します。

あと、２番目なんですけれども、新居浜の美術館と少し地域が重なるんですが、兵庫県立美術館と広島市の現代美術館の「１９４５年±５年」という展覧会に、中村研一の「シンガポールへの道」を貸し出しする予定になります。

今のところ、貸し出しは以上になります。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。ここまで事業４件について、ご質問等ありましたら、よろしくお願いします。

では、（３）の平成２８年度予算について。

【吉川係長】　　それでは、平成２８年度の予算について、ご説明させていただきます。平成２８年度予算についてはあくまでも案の段階ですので、詳細はご説明できませんが、所蔵作品展２回、企画展２回を予定しております。

また、平成２７年度オリジナルグッズを作成しましたが、平成２８年度は行わない形を考えております。

それから、維持管理に関しては、これも昨年度、エレベーターの部品交換と高圧住専設備高圧開閉器の取替修繕という修繕費が入っていましたが、平成２８年度は、それがありませんので、その分は少なくなる見込みです。

美術館の事業の方ですが、こちらは、ポスター・チラシなどの広報費のデザインや印刷製本費について、広報活動を頑張らなきゃいけないということ、あと、いいデザインを使えばすごく人が入るというのがいろいろな点をある程度勘案した形で少し強化されたものとなる見込みです。

最後に課題として、年々、額縁の作成費や油彩作品修復費の確保についてはやはり難しい状況でありまして、ただ、美術館の役割の１つである保存・修復に対しても財政当局と共通認識を図る必要性があるのではないかということが、例年どおりですが、課題になってはおります。

最後ですが、助成金もいくつか申請しております。例えば、文化庁の文化芸術振興費補助金というものは、これは平成２７年度に申請が受理されたので、一応３年計画でということの２年目を出しているんですけれども、これがとれれば一番大きいかなと思っていますけれども、現時点では、希望という形になります。

予算に関しては以上です。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。２８年度予算について、ご質問等ございますか。

【村澤委員】　申請中の助成金と予算についてですが、予算の中には組み込まれていないのでしょうか。

【吉川係長】　含まれていません。

【村澤委員】　とれた場合はどうなるのですか。

【吉川係長】　とれれば補正予算などで対応することとなると思います。

【村澤委員】　わかりました。

【山村委員】　昨年の１１月２５日に提言という形で常勤学芸員の必要性と自主企画展の必要性、運営の改善、広報の充実ということを提言したんですけれども、これは今回の予算、それから、事業予定の中にどのように反映されているか、その辺の考えとかあったら教えてほしいんですが。

【吉川係長】　この間いただいた提言が今回の予算の中で具体的にどのように反映されたかというのは、明確ではありませんが、企画展と所蔵作品展の双方が必要であるという点では、かなり後押しになっていただけたかなと思っております。

人の問題については、中々簡単ではありませんので、引き続き、今後の課題になるのではないかなと推測しております。

【鉄矢会長】　ありがとうございました。

そのほかいかがですか。

今度の市長は、美術館には足しげく通う人なんでしょうか。オープニングパーティーとかやったときには、ひょいと来るような市長なんでしょうか。それともまだわからないから呼んだほうがいいんでしょうか。

【吉川係長】　内覧会とかをやった場合には必ず、毎年、毎回必ず内覧会の場合は市長に声をかけているんですが、議会と重なってしまうと難しい状況になります。

その場合は代理で、館長だとか市民部長が出席されますけれど、お声かけは必ずしております。串田展は市長になる前にいらしてます。

【鉄矢会長】　ぜひ市長に子どもの前で美術は大事だねと話す機会をつくるとか、ただ、見に来いじゃなくて、子どもに声をかけられる場面をつくって、美術は大事だねという場面をつくってあげると美術館もいいかなと思います。

【薩摩学芸顧問】　新しい市長は、市議を８年やられていたんですね。それから都議を８年やられて、ちょっと１回落選されたんですけれども、小金井生まれで、小学校、中学校、小金井の方で、都議会議員のときには、展覧会には時々いらっしゃっていました。私も何度か会って、お互いに顔と名前も知っていまして、この前ちょっとお会いしたとき、あのお茶室、何とかしようよと向こうのほうでちょっと話をしておられました。

【鉄矢会長】　いい風かもしれないですね。

【薩摩学芸顧問】　ええ。少なくともこの美術館のことはわかっている人だろうと思います。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。その他ございますか。

なければ、４番の平成２７年度の運営協議会、総括についてになるところなんですけれども、ここで若干の休憩を取りたいと思います。

（　休　　憩　）

【平岡委員（館長）】　この議題については、僭越ながら私の方で趣旨をご説明させていただきますと、委員の皆様には、感想のような部分で結構ですので、節目として、それから、任期としてちょうどここの年度でということもあるので、そのあたりであれば一言お願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【鉄矢会長】　よろしくお願いします。順番でよろしいですか。

【村澤委員】　私から。

【鉄矢会長】　はい。

【村澤委員】　ちょっと今年度というか、ちょっと覚えてないんですけど、任期中ということである意味、印象に残った展覧会としては、佐藤慶次郎の「コレなんだ？」というあれです。これはちょっと美術館だから、例えば絵とか、置物とかを展示するのかなと思っていたところに、ああいう動くものを展示いただいて、その新鮮な目で感動したというか、学芸員さんのご苦労とか、こういうのを美術館でやる展示といったところで、ちょっといろいろあるのかなと思いますけれども、感動した展覧会でした。そんなところです。

あと、絵としては、やはり中村研一の絵としては、どの展覧会だったか覚えてないですけど、奥さんのお父さんを描かれた絵があったんです。あれは中村研一の絵として、多分戦争中のものだと思うんですけど、戦前かと思うんですけど、結構きれいで、非常に印象に残っております。

この美術館だけではないんですけど、秋に近代美術館ですか、そこで戦争画展で、中村研一の絵もその時代のものをちょっとこの美術館でできればいいかなとは思っています。

以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございました。上田委員、どうぞ。
【上田委員】　　今期の２年もそうなんですけど、その前のときからずっと見ていて、企画展、展覧会がものすごく魅力的になってきているという言い方はとても僭越なんですけれども、すごく見に行きたい、行っておもしろいと思うようにどんどんなってきているような気がします。企画展が特に魅力的だなと感じます。
　先ほど資料でいただいた数字にもそれがあらわれているような気がするので、これからどんどんもっともっとというのは欲張りですけど、魅力的な企画展の展覧会をやっていってほしいなと思います。
　自分自身も、子どもが小さかったのがどんどん大きくなるんです。最初、小学校のとき、中学校に入ったときですか、今、高校生になったんですけど、そういう目で見ても、どんどんいろいろな美術館を見る目がいろいろな角度に変わってきて、いろいろな美術館の姿を見せてくれる美術館だなと感じています。ほかの美術館もそうなんでしょうけど、特に地元の美術館がこういうふうにいろいろな役というか、姿を持っていただいているのはとても財産だなと思います。
　あと、もう一つなんですけど、先ほど提言をこの間、まとめたものが予算の要求などにすごく後押しになって、力になったと言っていただいて、特に私がやったわけではないんですけれども、こういうふうに運営協議会に参加してきて、何か力になれたんだなと思うと、とてもうれしいと思いました。
　以上です。
【鉄矢会長】　　ありがとうございます。
　では、小林委員。
【小林委員】　　１回目、２回目と公務の都合で参加することができずに、この運営委員会の協議会のほうに貢献できなかったことを大変申しわけなく思っています。私、前にもお話ししたとおり、美術というのがあまり得意ではなくて、関心もなかなか高まることがなかったんですけど、この美術館運営協議会に参加させていただいたことをきっかけに、この美術館に足を運ぶということと、それから、小金井のこの美術館は非常に市民に親しみやすい美術館だという印象を受けています。いろいろな区市で大規模になったりということがあるんですけれども、これは非常に小金井らしい美術館だなということを実感しているところでございます。
　１点目は、前回、お話もしましたように、教育普及事業を非常に力を入れていただいているところに、学校教育にかかわるものとしては非常にありがたく思っておりますし、感謝している次第です。また、ここの提言の中の前の部分の評価のところと、それから、課題のところにも載せていただいてありますけれども、ここに書いてあるとおり、鑑賞は、この鑑賞教室と中学生の職場体験については、非常に地道な活動を続けていただいて、長く続けることによりと書いてありましたけれども、非常にそれが学校に浸透していて、小金井の美術館で学んだこと、それが心に残って、大人になってふるさとを愛する気持ちに育っていくんではないかなということを、これを読ませていただいて確信をしたところであります。
　図工や美術というのは、特に学校で１人の教員配置ということになっていて、なかなか研修をする機会が小金井とか、多摩地区とか、都じゃないとできないんです。

ですので、また、教員に対しても啓発を行っていただければ大変ありがたいと思いますし、今後も鑑賞教室や、この出前授業、職場体験などにご協力をいただければ、美術を通して小金井の学校教育がますます向上していくと思いますので、今後ともよろしくお願いしたいと思っております。大変力不足で恐縮ですけれども、ありがとうございました。

【鉄矢会長】　　山村先生。

【山村委員】　　先ほどお話が出た自主企画の充実ということで、特に私も、今年一番、この中で一番感銘を受けたのが串田孫一展でして、じっくり見たんですけれども、ほんとうに知らないことが多くて、その中で図録も含めて勉強になったなと。それがここでしかないということですから、ここで論議する企画ということなんで、大変な功績じゃないかなと思っております。カタログの執筆が薩摩顧問という、巻頭の部分がそうだったんですけれども、もちろん薩摩さんだから書けた部分でございますけど、ほんとうは学芸員にも書いてもらえばもっとよかったなと思っています。でも、こうやって実績を積んで、自主企画でちゃんとした、薄いですけれども、図録を積み重ねていくことはこの美術館の歴史になりますので、ぜひ続けてほしいなと思います。来年の中村研一展もすごく期待しています。今までにない中村研一展、小規模でもいいので、今までにない発見とか、研究とか、切り口とか、そういうものを今からでもできると思うので、ぜひ期待していますので、よろしく。学芸員に言っていますので、よろしくお願いします。

それから、２つ目は、振り返りということでいくと、収集、戦争中の雪景色の作品とか、あれは去年だっけ。

【薩摩学芸顧問】　　去年ですね、そうですね。

【山村委員】　　結構大きな作品の寄贈があったりとか、そうやって地道に重ねて、ここの所蔵品が充実していっているというのは、大変これもすごく評価すべきポイントだったと思うし、それも蓄積するものですから、１年１年の活動の中で作品とか、資料とか、そういうものは蓄積していきますので、これも高く評価されるポイントかなと思います。

というわけで、先ほどの提言の内容のことについて、どう反映したのかみたいなことをご質問しましたけれども、特にこれは今後、長くかかるというふうに館長さんの発言もありましたけれども、長くかかるのは当然だと思いますけれども、特に提言の中の学芸員１０年の契約とか、あるいは５日間運営の問題とか、やっぱりこれが核にあると思うんです。今言った企画の充実、所蔵品の寄贈も含めた信用の蓄積というのは、学芸員が１０年は最低やっていかないとなかなか難しいかなとは経験上すごく思いますので、ここのところは、委員をやっている以上は何とか実現していただくように、非常に厳しいと思うんですが、新しい西岡市長にぜひ期待させていただいて、お茶室の問題もそうなんですけど、やっぱりこの学芸員の問題というのはぜひ、雇用の問題ですから非常に難しいと思いますけれども、よろしくお願いしたいと思います。

以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。私からは、すみません、進行をいろいろ、

遅刻もするし、ごめんなさいというのがあるんですけど、皆様と一緒にできてほんとうによかったです。

手打ち会のような会議ではなく、皆さんからいろいろなアイデアが出て、歯にきぬ着せぬようなことをしながらも、皆さん全体的に、美術館と学芸員のことをどういうふうに育てていくのかというのは、やりたいようにという表現だと変なのかもしれないですけれども、もっと動きやすくというのをいつも考えていただけていたような気がしますし、私もそういうふうに努めていたつもりで、そういうのが多分提言になっていったんだと思います。

また、薩摩顧問にもいろいろご指導いただきながら、いろいろなアドバイスをポイントを押さえていただいたりしながら、うまく進んだのかと思っております。また、事務局もいつも下支えしていただいて、すみません、なかなか連絡がつかなかったり、ご迷惑をかけていましたけれども、何とか無事終えました。

私も今回、今期ですけれども、雪化粧の明治神宮のあのものと、あれがやっぱり戦地に行っている人たちは、中では平穏な日本を見たく、内地の人間は実は勇ましいものを見たいという、ああいう目からうろこが落ちるような解説というのは、そういうものなんだと、いろいろなふうに物事を見る、背景をどういうふうに読むかという醍醐味もこの美術館で楽しませていただいています。そういう意味では、ほんとうに小さい美術館ですけれども、どこにも負けない伸び伸びさというものがあるし、発想の柔軟さもあると思いますし、あと、教育普及はほんとうに全小学校がやっているというのはいろいろ、私は、すみません、いろいろなところでしゃべらせて、使わせていただいています。ほかの市のほうに行ったときも、そういうことをやっている、小金井市はそのぐらいやっているんだよという話もできますし、そうすると、やはり市の方々はそういうふうに、教育というものが教育委員会だけのものじゃないというのがすごくよくわかるみたいで、いい宣伝になっていると思います。

それから、今回初めてですね、貸し出しがいっぱい予定に入ったのは。

【中村学芸員】　はい。せっかくなので報告したいなと思いまして、まとめました。

【鉄矢会長】　そうですね。前、見ていなかったので、これだけ先輩学芸員からずっと脈々とやってきたことが全国に知れ渡って、貸してくれということになってきたというのはすごいことだなと思っております。貸してあげるよと言ったわけじゃないですものね。いろいろありがとうございました。これで私からの総括とかえさせていただきます。

よろしいでしょうか。

では、（５）その他、意見交換等。どうぞ。

【上田委員】　ちょっと気になったんですけど、次回の所蔵作品展のタイトルは、「中村研一回顧展」ということに決まりというか、このタイトルにするんですか。それとももうちょっと違うのに。というのは、そう言われて来るかなという気がしたので、「開館１０周年記念　中村研一回顧展」と言われて、ちょっと人に声をかけるときに、「１０周年記念だからおいでよ。」と言うのも、あんまり……、回顧展と言っても、「誰？」と言われちゃうところがあるので、もうちょっと目を引くという

か。目かな、タイトルをちょっと再考したほうがいいかなと少し思いました。

【鉄矢会長】　　そうですね。私、１０周年記念展と聞いたときに、１０年間のポスターがだーっと並んだりするのも１つなんだろうなと、それにかかわって、一番最初にかかわった後藤さんは今、後藤先生として小平でやっているとか、いろいろな。正木先生の下でいろいろな学んだ学生たちも、こういうのを手伝いながら散らばったのがここにそういうときに集まって、ポスターを見たり、いろいろするというのも、もう１回、その人たちとしゃべって、営業マンになれるのかなという気はしますね。

あと、教育普及をずっとやってきたんで、そういう人たちがもう１回、集まれる、集まって。１０年ですから、小学生がもう結構な、高校生ぐらいですか、９歳だと大学生になっている。

何かいろいろな企画があるんだろうなと。もちろん一番メーンの中村研一をびしっと見せるというのはありますけど、美術館自身がこんなふうに動いているとか、小さな美術館展みたいに、小さな美術館とのコラボのほうに注目するだけでも、こんなことができるんだという何か。ちょっとニーズは少ないんでしょうけど、学芸員になりたいという学生にとってもすごく励みになるところだろうなと思います。

【薩摩学芸顧問】　　来年度で１０周年ということで、正直言って、よく１０周年を迎えられたなというか、中村研一の奥様から寄贈を受けたときから、私は知っているわけですけれども、とにかく議会で寄贈は受け入れるけれども、金は使うなという変な附帯決議がついたんですね。あのとき、ちょっと呆気にとられまして、教育とか文化は金を使うなと言われると、別に無駄遣いをする気はないんですが、金を使わずにやれというのは無理がある。

それで、ただ、あのころ、市庁舎の問題等々の問題から、大きな問題を抱えていたのでしようがないのかなと思ったんですけれども、ふらふらしながらでも何とかやってきた。１０年という実績が出れば、これでつぶれることはないのかなと思っています。

それから、やっぱり最初のころはいろいろなこと、大変で学芸員が体を壊してしまったり、嫌になって１年でやめていったりとか、いろいろ私も苦労したんですけれども、この前の荒木、神津あたりから、５年、きちんとやってくれる人が出てきて、そして、その二人とも、今は、神津はフリーというか、ある企画会社に勤めて、企画だけじゃないですけど、いろいろなことをやっていますし、ホテルオークラの美術館の企画もかかわっていますし、荒木は今、神奈川近代美術館のほうで非常に評価が高いです。

今、ここにいる２人も大変かもしれないんですけれども、ある意味でここがいいのは、何から何までやるということですね。この間、私はつくづく思ったんですけれども、東博で３年間、非常勤をやっていたという人、うちの美術館が採用しようとして、うちって芸大のほうの。聞いてみたら、３年間、データ入力の仕事をしていたと言うわけです、ずっと。別の人に聞いたら、３年間、ボランティアの世話をしていたと言う。総合的な感覚がついてないんですね。ここはもう難題があるもので、申告書から、教育普及から、ほんとうに年俸の計算からですね。これはある意

味で学芸的な仕事を嫌でも全部、だから、こういうところできちんとやるというのは、これはもちろんネガティブなところも随分あるんですけれども、その先へのステップになっていってくれて、任期５年とか１０年とか、そういうことをこれから考えますけれども、ここから人材が育ってくれるというのも非常にうれしいことだなと思っていますので、次の１０年、そのくらいは私も頑張れるかという気がしますので、また続けていきたいと思っています。以上です。

【鉄矢会長】　ありがとうございました。では、よろしいですか。

【吉川係長】　喫茶棟の件についての報告ですが。

【平岡委員（館長）】　それについては、私の方で説明させていただきますが、喫茶棟を今やっていただいている事業者さんが今年度末をもって継続しないということを昨年秋に表明されました。その後、その事業者さん自体がどうされるかということについては、お店自体を辞めるとは聞いていないんですけれども、販売のみを以前の場所に戻ってされるのか、若干飲食もされるのかというのはちょっとわからないと聞いていますが、いずれにしても、あの喫茶棟の運営事業者が撤退するということになります。それに伴って、また、こちらとしては、淡々と次に入っていただけるところを公募していく手続に来年度は入っていくという状況になるんですけれども、一応入っていらっしゃる事業者さん側としても、お客さんのほうに少しずつ情報を出していくと言っていましたので、年末ぐらいから少しずつ話は外に出ていっているかなと思っています。

私どものほうは、２月１日の市報で、あまり大きく、細かくは書かず、休業になりますというような形でのアナウンスをしていくことになりますけれども、その休業は臨時の休業ではなくて、次のところが入るまでの間の休業ということになりますので、それだけちょっとお知らせをしておいたほうがいいかなというところでございます。

【村澤委員】　もう新しい業者は、募集は始まっているのですか。

【平岡委員（館長）】　こちらも、あまり期間を置きたくないんですけれども、次の手続に入る前に、ちょっと１回、中を一通り見る必要があると思っていますので、まだ募集はこれからと思っています。来年度、今年の年度が変わってから夏ぐらいまでの間にちょっと手がけないといけないかなと思っています。

【村澤委員】　仮に今の場所を改装というか、メンテナンスする予算についても予定されているのですか。

【吉川係長】　新しい業者が決まった段階で、補正したいと考えています。

【鉄矢会長】　美術館自身が今、一番、運営の仕方としては、週２休みにしたら、学芸員が重なるというのをしながら、後ろをどんなふうにあけていくといいのかなと思ったり、お握り研究所がお握りカフェになっても、お握り買って、こっちの川で遊びに行くみたいな元気なものになってもいいのかなとか思いました。ありがとうございました。

では、これでよろしければ、平成２７年度第４回小金井市立はけの森美術館運営協議会を閉会したいと思います。ありがとうございました。

――　了　――